

# KSKP えのき

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会  
理事長：古川 末子  
京都市伏見区桃山町山下44-8  
075-605-0303 (TEL)  
075-605-0310 (FAX)  
e-mail:info@enokikai.or.jp  
http://enokikai.or.jp

## NEWSLETTER

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行 定価100円

昨年はコロナウイルス感染症の拡大によりこれまででない影響がでた。特に第七波では、七・八月は職員十一名、利用者七名、九月には職員十一名、利用者三名が感染する事態となった。その間「はなみずき」の入居者が感染され、居室での生活を余儀なくされた。また、グループホームにおいて入居者二名、職員二名が感染した。他にも感染者が多数発生しており、えのき会全事業において四日間自粛した。その後は感染拡大することなく、隔離期間を経て日常生活に戻ることができた。秋以降職員の努力もあり影響は少なくとも、最終的には前年度の利用実績を上回るようになった。

コロナ感染症への対応により、九月は職員の自宅療養期間が重なり、支援職員が不足するなか、職員の疲労感が著しく、男性職員が二名離職、病休からの復帰も見通しがつかない支援体制に陥った。こうした状況から、秋以降、転職者の採用を強化。求人サイトの活用、採用担当者の努力もあり、女性職員は想定以上に採用することができた。しかし、男性職員の補充は進まず、支援現場の負担は今も継続している。それぞれを持ち味を認めあう人材育成とチーム創りに重点をおいて運営にあたるということが重要と思われる。

### 昨年を踏まえ今年に期す 統括部長 村上高久

昨年の春先に、ベテラン職員のとった支援行動に若手の職員から疑問の声が寄せられた。そのことが契機となり、事業所内で利用者への支援で気になることを出しあい、法人の職員会議で共有する時間をもった。呼称に関して〇〇さんと呼んでいるので〇〇ちゃんと呼ぶこともある。苗字でなく下の名前で呼んでいることに違和感がある。利用者と呼ぶ際「おいで」と声掛けするのがひっかかる等、他にもたくさん意見が寄せられた。日ごろ感じていても声にすることなく葛藤したままにしている現実を知ることになった。同時に声をあげ振り返りの時間を持つことによって支援の見直しができることの大切さを職員は学んだ。同僚と共有するなかで、この支援は本当に正しいのかという「ゆらぎ」をもって支援に臨む職場環境にしていくことが重要になる。

今後は法人研修では振り返りの時間を設定し、日常的にはミニカンファレンスを取り入れ協議するなど、職員の声が支援に反映される仕組みの定着化を目指したい。



### 2023年度 えのき会へご支援 お願いします

皆さまのご支援、よろしく申し上げます。

- ☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください
  - ☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。
- 1口 1000円 何口でもOKです。 上限はございません(〃)

皆さまには、いつも、えのき会を支援していただきありがとうございます。終わりの見えないうコロナ感染、片やロシアのウクライナ侵攻の影響からエネルギーや食料費の高騰等、諸物価の爆上がりは、庶民の暮らしはもとより、法人運営にも影響を及ぼしています。

2024年度、介護報酬、診療報酬、障害福祉等サービス報酬の同時改訂が行われます。

どの業界より介護福祉分野の賃金の低さが、これまででも問題になっていまして。「介護」という労働を正当に評価し、サービスに見合った賃金設定がなされるよう注視したいと思っております。

そして「えのき会があって良かった」と言ってもらえるよう、皆で努力していきたいと思っております。引き続きご支援の程、お願い致します。

障害のある子どもを育て、今思っている

「親は安心して死ぬこともできない・・・」

田中美子さん

えのき会の利用者、田中美美さんのお母様、田中美子さんに、玲美さんの誕生から半生を振り返ってをインタビューで、後半は母としての思いを記してもらいました。

事前に行ったインタビューで、玲美さんはお腹の中にいる時から極端に発育が悪く、不安を抱えながら出産したこと。低体重児であり、仮死で生まれた玲美さんは即入院、治療となる。イギリスに赴任した夫のところに、玲美さんと行く予定であったが、重度の障害のある玲美さんの命を守り、その治療を受けるため断念したこと。

その後、命を守ることを最優先に、より良い医療機関やリハビリ施設などを探し求め、病院巡りの日々を送る。大阪、横浜、京都等、夫の仕事の関係で転居を繰り返すなか、就学前の母子通園施設など利用しながら、障害児者の福祉制度等を学んだ。税収が潤沢な大都市と、そうでない地方自治体との格差も知り、地域によって障害児・者に掛けられる予算には大きな開きがあることも知ったこと。

これまでも、田中さんは、知らないこと、疑問に思う事を積極的に、納得のいくまで学んでこられたことが、田中美子さんの底力となっている、と感じたインタビューでした。

☆ミスターミスターミスター☆

玲美は、とても小さく、たくさんの病気を持って生まれ、何度も命の危険に晒されました。とにかく

小さな命を守りたい一心で、目の前にある問題一つ一つに立ち向かっていくうちに、いつの間にか、玲美は25歳になりました。

当初、私は玲美を看取ってから死ぬものだと思っていて、行政や政治に頼らなくても私が頑張ることで、玲美を元気に楽しく過ごさせてあげられたらそれでいいと考えていました。

しかし、玲美が元気に育っていくのと反比例して、私は年齢とともに体力の低下を感じるようになり、3年前に限界が来てしまいました。なんとか入院を回避して帰宅したもの、とても玲美の世話ができる状態ではありませんでした

玲美の生活をトータルでみてもらえるところなどにもなく、結局、夫が仕事を休んで玲美の世話をすることで、なんとかしのぎました。



満開の桜の下、玲美さんとお母さん

自分が無理の利かない年齢になってきて思うのは、玲美を安心して預けられる場所がもっとほしいということ。普段の様子をよくわかってほしい。事業所さんで、一泊の宿泊からさせてもらって、そこから幅が広がっていけばと思いますが、それが今の行政の仕組みではとても難しいということがわかってきました。

自分の限界を知ってから、行政の制度やシステムに頼らざるを得ない状況を経験し、また、それが現

状を賄い切れないことを思い知りました。このままでは安心して死ぬこともできないと、絶望にも近い思いです。

人間は、皆そうですが、一人では生きていけません。障害のある人はなおさらです。たくさんの人が関わって下さることで、障害のある人の暮らしが成り立ちます。また、関わって下さる方々も、たくさんの人との関わりの中で過ごされています。いろんな人の立場になって考えていかなければ、現状を変えることはできないと思っています。

そのためには、想像力だけでなく知識も必要になってきます。できるだけ多くの知識を蓄えて、玲美に関わる人の立場を理解して行動することで、その方々により深く玲美と関わってもらえたらと思っています。

玲美の未来は、今後関わって下さる方々に委ねられています。できるだけ多くの人に玲美に関わってもらって、深く玲美を理解してもらうために、私が元気なうちに、いろんなところで過ごす時間を増やしていきたいと思っています。

そして、私がいなくなっても、気心知れた方々と一緒にグループホームで暮らしながら、日中は通い慣れたデイサービスで過ごし、時には移動支援や行動援護でお出かけしたり、状況に応じてショートステイを利用したりしながら、無理なく、楽しく、生き生きと、過ごしていけたらと思っています。

と、理想を言葉にするのは簡単ですが、実現するのは容易でないことは百も承知です。ゆえに、この理想を実現することを私の人生の目標とし、今からできることを、一つ一つ取り組んでいきたいと思っています。





## シェアハウス・「はなみずき」の紹介とPR



一度ご見学においでください

さくらの家・西町  
075-623-6910  
シェアハウス・はなみずき (2F)

- ・「住宅セーフティネット制度」とは、低所得者のみならず、障害者、子育て世帯、ひとりの親世帯など、住宅の確保に配慮が必要な方に、安全かつ良質な住まいとして登録された住宅を提供するといつものことです。えのき会では、障害のある方、一人親世帯を対象にしています。現在、3名の暮らしが始まっています。選んだ理由を聞いてみました。
- ・「親元から離れて独立したいから」
- ・「仲間と皆で、楽しく暮らしたい!」
- ・「ゆっくりに」□□□□できる時間が欲しい」
- ・「身体的な機能を維持しながら、様々なことにチャレンジしてみたい」
- ・「自分の力を試してみたい」
- ・「1回きりの人生、それぞれの思いを実現するために介護者がお手伝いします。」

昨年から今年にかけて、ご寄付を頂いた方のお名前を掲載しております。少し期間が開きすぎて申し訳ありません。また、1面では、同時にご寄付のお願いを掲載しております。無節操なことではありますが、これもコロナの所為として、ご容赦のほどお願い致します(-\_-)。今後とも「えのき会」をよろしく申し上げます。



### ご寄付いただきありがとうございました【敬称略】2022年1月～2023年5月末

秋山 延枝	秋山 泰人	磯貝 英雄	伊東 由利子	猪鼻 昌司	植田 健司	植田 智恵	内田 友希	梅原 久美子	及川 洋一	大谷 敏夫	大西 佳奈子	大西 雅也	岡 千栄子	荻原 卓司	長谷川 君枝	森田 幸子
奥田 希充子	勝見 九重	北川良工務店	北野井 一恵	木村 健治	京都バナナ加工店	草場 周啓	桑田 明仁	小中 謙吾	小仲 泰子	小山 敏枝	清水 孝男	スタジオ k i m i	高橋 隆行	高橋 陽子	渡辺 淳	安井 愛咲
竹村 壽子	竹本 勝一	田中 朗	田邊 鈴恵	谷内 文子	谷口 登茂子	田宮 聖美	津田 尚子	土田 恵理子	津々木 幸子	中川 穂乃伽	中路 慶子	中島 勉	西村 清忠	橋本 加津代	松田 伎美子	山本 正治
古川 末子	樋口 和子	久門 誠	平井 正一郎	平尾 祐介	藤田 亜都子	藤谷 一夫	増田 ひろみ	松岡 峰子	松田 晶代	三矢 佑悟	宮坂 亜矢子	武蔵野 真知	村上 貞子	森 昌代	山ノ下第一自治会	京都鳥羽ライオンズクラブ



こんな笑顔に!

「ティでの利用者さんの自傷行為に悩んでいました。もっと、『楽しい、うれしい』を増やしていけないか? あれやこれや取り組みを続けているうちに、今では自傷が減っただけでなく、来所されやすく「笑顔」が見られるように!



この度一身上の都合で退職させて頂くことになりました。利用者様並びにご家族の皆様には大変お世話になりました。ご迷惑をいたしました。入職当初は、利用者様の思いをしっかりと汲み取ることができず、顔を見ただけで避けられ、介助拒否。時には手や足が...

しかし、今では顔を見たら真っ先にかげよって来て下さったり、時に抱きついて下さったり、私を心配して頭を撫でて下さったり。真心を込めて関わり続けることで、伝わる日が必ずくるんだと分かった経験でした。

また、外出支援やコロナ対応時の支援では、あなた達がいてくれたから、この子達はこんな経験ができた、助かったなどとお言葉を頂いた時は、やっていて良かった、間違えてなかったと感じました。どんな職業でも大変なのは当たり前です。

しかし、笑顔や感謝が直接返ってくるのは他にはない、福祉の最大の魅力だと働く中で改めて感じました。えのき会での経験は特別であり、忘れません。8年間本当にありがとうございました。

相根菜摘美



チラシでご案内していますが、今回もフードドライブを実施したいと思っております。一人でも多くの方のご協力を

お願い致します。



音楽活動の時、鍵盤ハーモニカを弾いていると、彼女も手を出して一緒に合奏してくれました！



じわじわとお隣の仲間の方へ...。気づけば真横に仲良く寄り添う姿に

ホッス



後記に変えて

日々のプログラムのなかで、普段見られない利用さんのとびきりの笑顔や表情に出会った時、それは介護する者の元氣エネルギーとなります。

言葉はなくても、ただ存在しているだけで誰かを励まし、元気づけたりできる彼らって「すごいな」。

今日のニュースレターに、8年間在職し、新生活のため、京都を離れていかれた相根菜摘美さんの手紙に、「真心を込めて関わり続けることで、伝わる日が必ずくるんだと分かった」と書かれています。「また、どんな職業でも大変なのは当たり前です。しかし、笑顔や感謝が直接返ってくるのは他にはない、福祉の最大の魅力だと...」とも。

「あの障害のある人に出会わなければ、今の私はなかった」、そう思えた体験を発信していくことも、福祉に携わる者の、社会福祉法人としての、大切な使命なのかもしれません。

ツイッターに掲載され、たくさんの方が読み、多くのメディアにも取り上げられた宮尾節子さんの詩を紹介します。

『明日戦争がはじまる』

宮尾節子

まいにち  
満員電車に乗って  
人を人とも  
思わなくなった  
インターネットの  
掲示板の力キコミで  
心を心と  
思わなくなった  
虐待死や  
自殺のひんぱつに  
命を命と  
思わなくなった  
じゅんぴ  
は  
ばっちりだ  
戦争を戦争と  
思わなくなるために  
いよいよ  
明日戦争がはじまる

編集人：(福)えのき会 理事長 古川末子

(法人本部)

〒612-8002

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

発行人 関西障害者定期刊物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2

東興ビル4F



〒